

「ノーテレビデーの町」宣言について

1 趣旨

近年、子どもたちのメディアへの長時間接触により、生活習慣の乱れ、夜型生活への移行、体力の低下、人格発達の問題、コミュニケーション能力の低下等多くの問題が発生している。

平成15年度に実施した調査で、本町の子どもたちの生活実態に、「テレビ・ビデオ視聴やテレビゲームを長時間行い就寝時間が遅くなり、その結果睡眠不足を起こし、朝の目覚めが悪く食欲がない」という悪循環が見られた。

文部科学省は、平成18年度から「早寝、早起き、朝ごはん運動」を提唱し、全国協議会を立ち上げ全国運動として実施を図っているが、本町ではこれに先駆け、平成16年9月から、メディア接触時間を見直し規則正しい生活習慣の定着を図ることと、家族のふれあい時間の増加を意識した、全町ノーテレビデーの取り組みを各保育園、小中学校で実施してきた。

この取り組みは、空気や水のように私たちの社会や家庭にあふれ、生活に溶け込んでいる「メディア文化」を考えるきっかけとなった。テレビとの付き合い方を話し合うことで、テレビ視聴時間の減少やテレビを見ながら食事をする家庭の減少、家庭におけるテレビルールの定着など、テレビが奪っていた家族の会話や、コミュニケーションを取り戻す契機となり、その成果は徐々に現れてきている。

今後は、子どもたちをはじめ、全町民がテレビをはじめとする「メディア文化」を改めて考え、温かい人間愛にあふれ、心のふれあう家庭や地域を創造するため、町議会において毎月15日は憩いの日「ノーテレビデーの町」として宣言・決議をいただき、町民総ぐるみの取り組みとして推進していきたい。

2 取組の経過

(1) 子どもたちの生活習慣改善啓発モデル事業（平成14年度～16年度）

- ・2つの柱（生活リズムを整えよう。朝食をしっかりと食べよう）で事業展開
- ・啓発リーフレット配布（平成14年度）
- ・園児・児童生徒及びその保護者(1,984人)にアンケート調査（平成15年度）
- ・全町ノーテレビデーの実施（平成16年9月）

東小学校区	西小学校区	南小学校区	三朝中学校
【Aコース】 1日テレビ等をつけない 【Bコース】 1日2時間までの視聴 【Cコース】 夜9時以降はテレビを消す 【Dコース】 食事中はテレビを消す	1日ノーテレビデー 【家族コース】 家族みんなで挑戦 【親子コース】 親子で挑戦 【子どもコース】 子どもだけで挑戦	【レベル1】 食事中はテレビを消す 【レベル2】 夜9時以降はテレビを消す 【レベル3】 1日2時間までの視聴 【レベル4】 帰宅してからノーテレビ 【レベル5】 1日テレビ等をつけない	【Aコース】 1日テレビ等をつけない 【Bコース】 帰宅してからノーテレビ 【Cコース】 1日2時間までの視聴 【Dコース】 夜9時以降はテレビを消す 【Dコース】 食事中はテレビを消す

平成16年9月実施時における、各学校選択コース

(2) 啓発活動

ノーテレビデー推進標語の募集(東小学校)

町報に掲載(毎月15日は憩いの日「ノーテレビデー」)

幟旗の作成配布(各保育園、小中学校)

防災無線による定時放送

新聞・雑誌等による報道

- ・日本海新聞(平成17年2月2日)
- ・朝日小学生新聞(平成18年1月20日)
- ・読売新聞(平成18年6月22日)
- ・南日本新聞(平成18年11月7日)
- ・日本経済新聞(平成19年7月19日)
- ・毎日新聞(平成19年10月8日)
- ・子ども白書2005(日本子どもを守る会)
- ・チャイルドヘルス(診断と治療社 平成18年9月号)
- ・国民生活白書(内閣府 平成19年度版)
- ・子どもの力の育成第3巻

学校で実践!子どものからだ・こころづくり(教育開発研究所 平成19年9月)

講演会等での発表

- ・第2回全国子どもとメディアフォーラムin福岡(平成17年2月)
- ・全国教頭会特別分科会(宮崎 平成17年8月)
- ・とっとり発メディアとの接し方フォーラム(米子 平成17年10月)
- ・第18回日本小児科医会セミナー(千葉 平成19年6月)

3 子どもたちの意識や家庭状況の変化

この取り組みを実施することで、子どもたちの様子や家庭状況に少しずつ変化が見られるようになった。「辛かった」「我慢した」「親が耐えられない」など、家族での葛藤場面が想像されるような感想もあったが、取り組みに対して多くの肯定的な感想が寄せられた。

毎月継続して取組むことで、チャレンジではなく当たり前のこととして定着してきた家庭の増加。

月1回の取り組みから、毎日の生活に広がり、「食事中は必ずテレビを消す」とか「見たい番組だけを選んで見る」など、家庭でのテレビルールの定着やテレビに対する意識の変容。

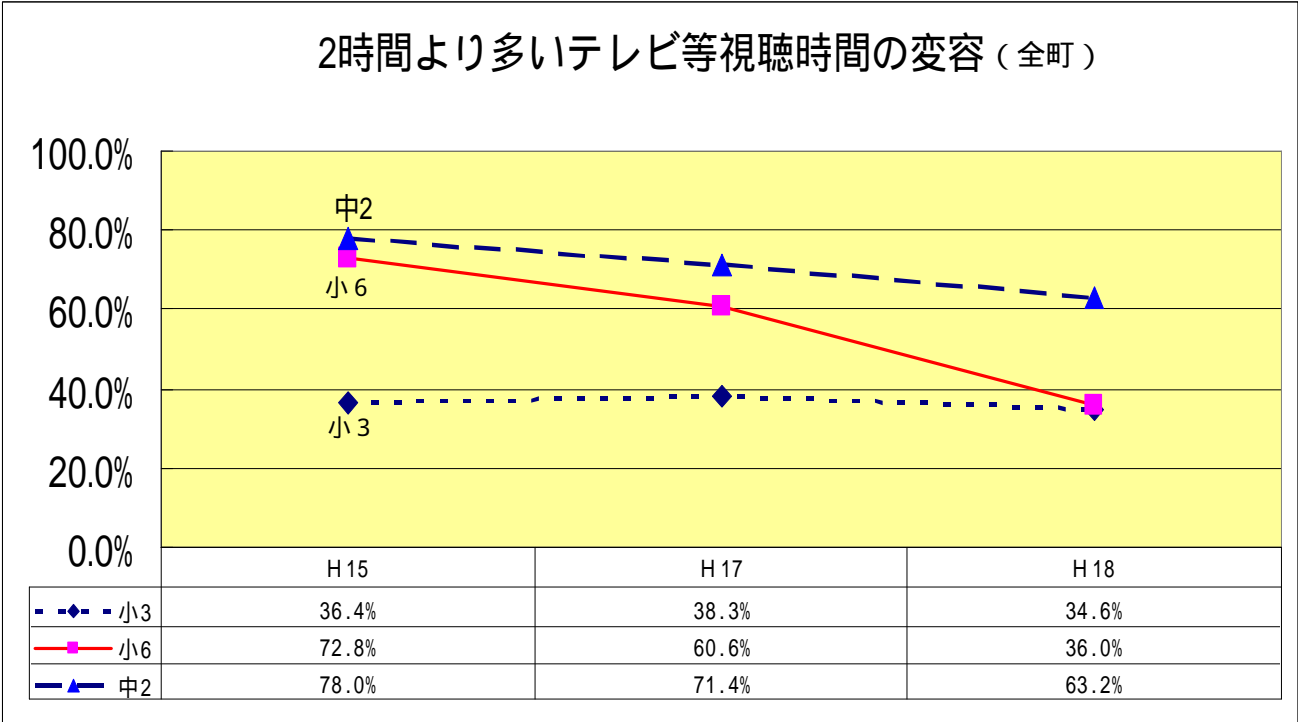
15日になると、子どもたちがテレビにノーテレビデーと書いた紙を張り、家族に確認する姿が見られ、大人よりも意識して取組んでいる子どもたち。

テレビを消すことで、子どもたちの様子が普段より良く見え、テレビやビデオに子守をさせていたことに気づいた多くの親たち。

家族が本を読んでくれることや、一緒に遊んでくれることを楽しみにしている子どもたちの姿。

アンケートの結果からも、子どもたちの意識や家庭環境の変化が見られた。A小学校では、テレビを見ながら食事をする家庭が、70%(平成16年度)から55%(平成18年度)に減少した。11時以降の就寝も34%(平成14年度)が0%(平成18年度)となった。さらに、3時間以上のテレビ等の視聴は、11%(平成16年度)から3%(平成18年度)まで減少した。我が家のテレビルールを決めている家庭は61%となった。

4 テレビ視聴時間の変容



5 宣言要請の経過

- (1) 三朝町青少年育成町民会議において、これまでの取り組みの経緯を説明。「ノーテレビデーの町」宣言・決議要請について承認。
- (2) 心の教育推進委員会において、「ノーテレビデーの町」宣言・決議要請について承認。
宣言文の検討。
- (3) 社会教育委員会において、「ノーテレビデーの町」宣言・決議要請について説明。